



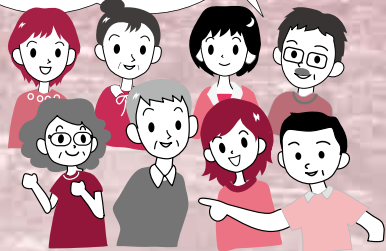
広報モニター 見てある記

# 感動！ おおむらの技名人

私たち大村市広報モニターは、市が行う広報活動全般についてモニターングし、市政だより、市のホームページなどが市民にとって見やすく、知りたい情報が掲載されているか調査・検証を行っています。広報モニターの活動の一つとして、「広報モニター見てある記」と題して、自ら取材、編集を行い掲載しています。

市内で活躍している「人」にスポットをあて、ものづくりや手仕事などの技を持つ市内8地区8人の名人を、昨年の9月号に引き続きご紹介いたします。

広報モニターです！  
4回目は、市内で活躍している技名人をテーマに私たちが取材して記事の作成をしました。



鈴木

## 生まれ変わるものたち

● 渡辺 義弘 さん(中里町)  
わたなべ よしひろ

木工芸



渡辺さんのご自宅は、まるで民芸品店か骨董店を訪れたかのように数々の素晴らしい木工芸の作品群が並んでいます。日常生活の中でも作品とともに暮らしを楽しまれている様子がわかります。

作品はかわいい亀の姿をした楊枝入れのような小物から、趣味で集めた陶器類を飾る棚や、テーブルなどの大きな作品に至るまでさまざまです。それらに共通するのはどこか温かく、見ていてほっと落ち着くような気持ちにさせられるところ

です。制作を始めるようになったのは、ものを「もつたない」という思いからだつたそうで、最近ではあまり使われなくなった桶やせいろ、古い障子の枠、倒木や朽ち果てた木片など、多くは処分してしまいそうなものをうまく利用して新たな作品へと息を吹き込んでいらつしやる創造力に脱帽です。本業の仕事の合間に制作しているそうで、その熱い思いに感動しました。

地元の祭りでは毎年出展を楽しみにしていらつしやるファンも多く、請われて作品をプレゼントすることも多々。作品を通じて人の輪が広がっていくことが嬉しいとのこと。興味のある人はいつでも見学にいらしていただいで結構ですよ」と渡辺さんは快く話してくださいました。



三浦

## 生花と間違われるほど

● 中村 久子 さん(今村町)  
なかむら ひさこ

樹脂粘土



今村町内で活動している野の花会(清水智子さん、吉田幸子さん、補伽よし子さん、中村さん)は、樹脂粘土を使って、野山の草花などを表現した作品を制作しています。

中村さんが始めたきっかけは「清水さん宅に飾つてあるのを見て『私も習いたいなあ』と思ったから」だそうで、毎月1回集まり、今までに20作品くらい作られています。

作品は市販の樹脂粘土を型抜きや細く伸ばして形を整え、花や葉になる粘土に色を塗り込む方法で作られます。野の花会では、より実物に近づけるため何回となく花や葉脈などの勉強もされています。「みうら勘作まつり」には、2008年から連続して出展しており、昨年6月には中央商店街アーケードの「まちかど市民ギャラリー」にも展示して大勢の人に見ていただいたそうです。作品を見た人からは「何故こんな所に花が咲いているの?」とか「これは生花? 本物?」などと聞かれるそうで、そんな時が嬉しいと話されていました。今後も、市内や三浦地区の祭りに出展し多くの人に見ていただきたいと話されました。



共同作品



大村

優雅さと美しさに心惹かれて

● 西田鈴子さん(三城町)

和紙ちぎり絵



西田さんは、お勤めを辞めたあと、自分の楽しみ、趣味を探していました。そのときに和紙ちぎり絵と出会い、和紙のもつ柔らかい美しさに惹かれ、これだと思い飛び込んだそうです。

ちぎり絵を始めて13年、今では和紙の魅力にますます惹かれ、家においてもできるし、和紙と遊びながら生涯続けていきたいと話されました。

でも、自宅にこもっている家事に振り回されて、つい滞りがちになるので、あくまでサークルの中の一員として、会の皆さんと一緒に成長しながら続けていきたいとのことでした。写真では和紙の持つ良さが十分に伝わらないかもしれませんが、離れた所からパッと見すると、きれいな水彩画のようにも見え、間近で見るとそれは非常に細かい手の込んだ表現で、和紙特有の柔らかい優しい美しさに思わず見入ってしまいます。ぜひ皆さんも一度ご覧になりませんか。



萱瀬

ここに音の達人

● 田中英雄さん(田下町)

音響機器



自宅の複数の部屋に所狭しと並ぶオーディオ機器1,000枚にもおよぶCD、120インチのスクリーンと、明らかに素人の趣味のレベルを超えています。スピーカーもアンプも部品は秋葉原から取り寄せ、全て田中さん自らの手造りです。

中でも圧巻は、10畳の部屋の3分の1を占めるというスピーカーです。部屋の壁が即ちスピーカーになっているのです。ベニヤ板が見事にスピーカーの曲面を造っているその卓越した技術に、「凄い」としか言葉が出ませんでした。そしてさらに、そのスピーカーから響く音の素晴らしさは、どういう形容詞をもつてすれば最も的確に言い当てるかと悩んでしまう程です。

制作を始めたきっかけは、6年生の時、初めて聞いたステレオの立体音響に感動し、自分でアンプやスピーカーを造ってみたら、思った以上に良い音がして、それ以来病みつきになつたそうです。そして、自分の理論と設計で、市販品ではできないリアルな、狙い通りの音が出た時の感動が、変わることのない大きな魅力だと語ってくださいました。



また、その技術は個人の趣味の域にとどまらず、依頼されると音響設備の設定や修理にも労を惜しまず協力され

まさに地域の宝と言つていいでしょう。長くろう教育に携わり、補聴器の分野にも精通しておられます。せっかく、高価な補聴器をつけても、調節がうまくできていない人も多く、求められればできる限り見てあげたいという意欲溢れる言葉が聞かれました。

現在、田中さんの経験や技術を耳鼻科医や大学教授との連携により、人工内耳に取り入れるという方法で、日本全国の聴覚に障がいを持つ多くの人々をサポートしておられます。

取材を終えて……

◆今年度は2回にわたり、大村で活躍している8人の技名人についてお伝えしました。限られた紙面で、名人の技の素晴らしさ、技に打ち込む情熱、技を通して地域に貢献する姿を最大限に伝えることに苦心しました。

取材を終えて改めて、「花と歴史と技術のまち大村」に併せて、「人が輝くまち大村」でもあることを実感しました。我がまち大村をますます好きになれたことにモニター一同深く感謝いたします。

◆市からひとこと

広報モニターさんには2年間にわたり市の広報活動の支援および「広報モニター見てある記」の特集頁を編集していただきました。ありがとうございます。

